

30

29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

JAPAN

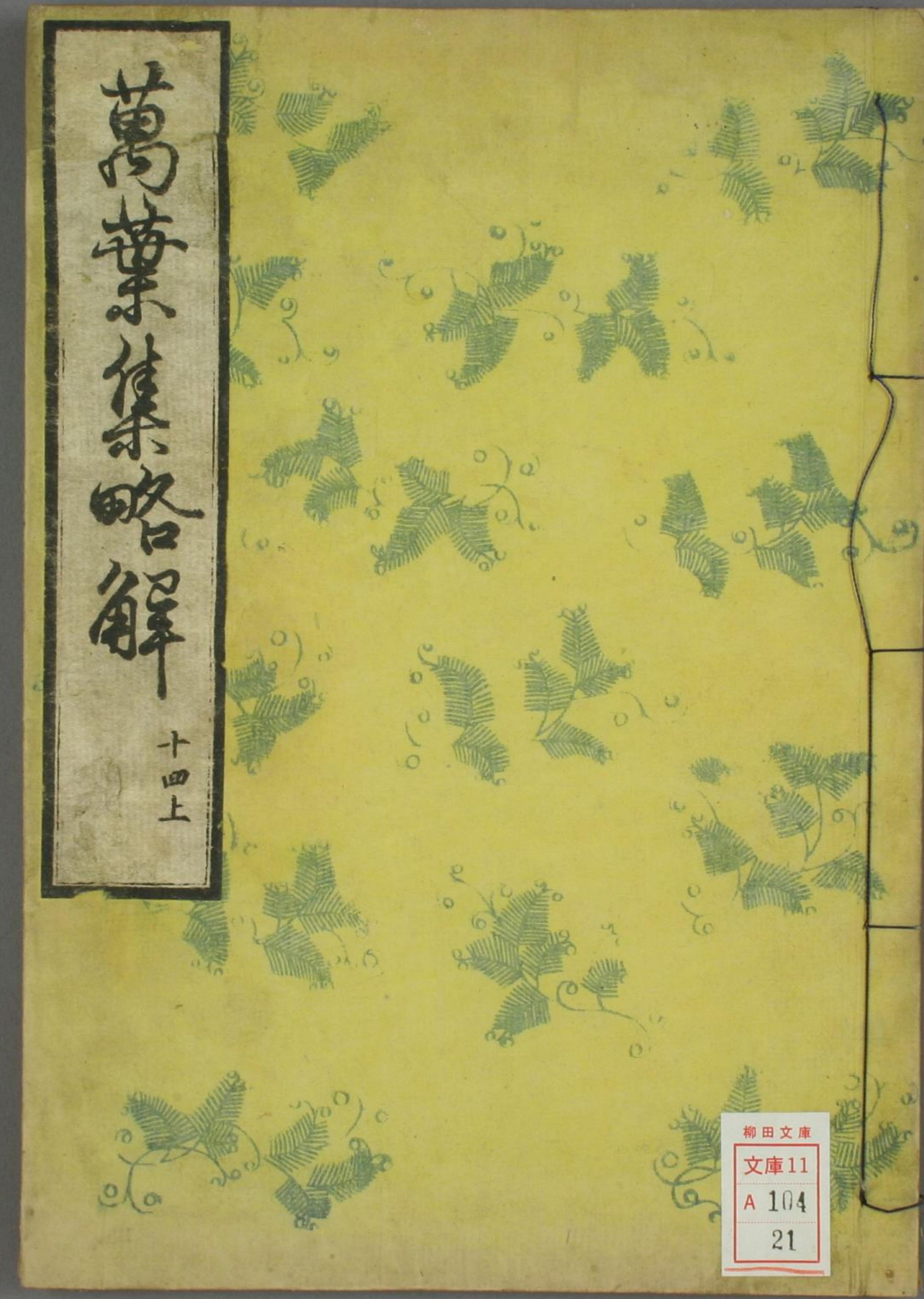
Tama

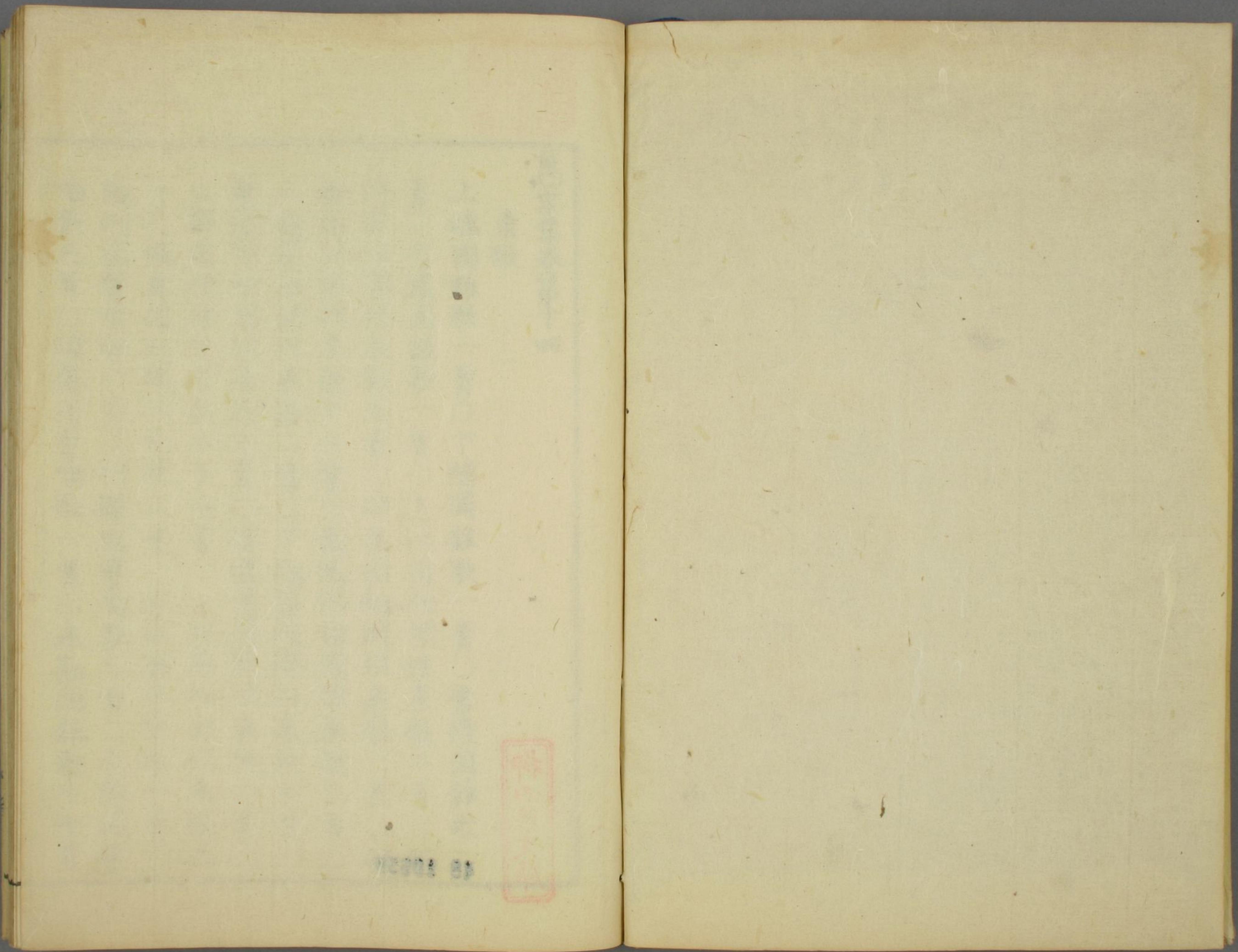
30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

柳田文庫  
文庫11  
A 104  
21

萬葉集解

十四





文庫11  
A 104  
21



萬葉集卷第十四

東歌

上總國雜歌一首○下總國雜歌一首○常陸國雜歌二首○信濃國雜歌一首○遠江國相聞往來歌二首○駿河國相聞往來歌五首○伊豆國相聞往來歌一首○相模國相聞往來歌十二首○武藏國相聞往來歌九首○上總國相聞往來歌二首○下總國相聞往來歌四首○常陸國相聞往來歌十首○信濃國相聞往來歌四首○上野國相聞往來歌二十二首○下野國相聞往來歌二首○陸奧國相聞往來歌三首○遠江國譬喻歌一首○駿河國譬喻歌一首○相模國譬喻歌三首○上野國譬喻歌三首○陸奧國譬喻歌一首○未勘國雜歌十七首



48 10659

○未勘国相聞往来歌百十二首○未勘国防人歌五首  
○未勘国譬喻歌五首○未勘国挽歌一首

土樂國時聞  
難國時聞  
所國時聞  
土樂國時聞  
東規

東歌

此次（こじ）小難哥相國、あくらひ上總國哥もく標ある。ハ皆後人の作もくへ

きよ考もくとれり。ナシテくわくは志るセア。

奈都素妣久宇奈加美我多能於伎都濱爾布禰波等杼宋

牟佐欲布氣爾家里

なつまじくうきうづの。おまつすみ。あはとめりんきよけ。うちめ

あつまじく桔日、む名稱上總海上郡（字奈）加美、是ちよか今同、ききあそ、そ

よ載る五そのオ、袖二そとま一そハあすりたゞ、改ムスレくはひり、

ゆうとく人のようてのろあよそるべからう、あくらひま人のあ、かのひくさ

フヒム。うたうる。それいともまよ傳うるま、まよのうへうううう、

トキのをまうすばれあつ

右一首上總國歌

可豆思加乃.麻萬能宇良末宇.許具布補能.布奈妣等佐和  
久奈美多都良思母

かづのまのうまとこぐすのよもとさわぐなみこつらし

葛竹初其向ハセシアスアリ.うまへ改モヒ生セ風の三ケの海  
まき

こく舟の舟人さわぐはまくいといすみか.うえつともく雪

右一首下總國歌

筑波彌乃爾比具波麻欲能伎奴波安禮杼伎美我美家思  
志安夜爾伎保思母

つとむ.あひぐハナヨのきぬハあれど.さみがみけり.あやされり

和名抄素蠶唐韵云繆

波万由

東金即素蠶也.新季の絛ともす

も.古の元奴婆多麻能入路岐美祁斯速シ.ナキマハ清衣とみ

東タレト川アヤマハトミタキホーとハ古ヘ男女の事とあすか

モセアハレハタマアモカタハシカトモカナリトヨアモベタセタモ  
御てまねタムトモリムシベーと翁の後.室もも.毛ハキアカリ  
居る官人ちの衣装の大きさトモリムシベー.トウの毛よきニシテ  
シカセギ

或本歌曰.多良知補能.又云安麻多伎保思母

毛ハキアカリムシベー.モリムシベー.ナカタカムシベー.モリムシベー

筑波彌爾.由伎可母布良留.伊奈宇可母加奈思吉兒呂我.  
爾努保佐流可母

フハヌヨムキアモカタムトヨシタキコロダ.モハボモアモ  
所零  
カタハカムシベー.モリムシベー.ナカタカムシベー.モリムシベー  
トモシベー.モハ布ベカモルヤセモのモカカ.モハキアムト.布ト  
カモトカカ.モカカ.モカカ.曝布の調モカカ.モカカ.モカカ.

タタタタタタタタタタ

右二首常陸國歌

信濃奈流須我能安良能爾保登等藝須奈久許惠伎氣婆  
登伎須疑爾家里

まちぬちあらむのあくのよほとさきをかくこもすけがときとぎよふ  
和名ね信濃筑摩郡草賀曾よりすまきをちん様よちくとく  
ゆくとすとすよ、御とのせままでおととおととおととおの調え入  
の仕事とおととおとと人みあやの方よとくがとくとく

右一首信濃國歌

相聞

ハくおすゆまなとく標セバ右立チのゆめま新キトモミモナド

あもと標シテ筆、改の因西石知トテシモ源セトキモアリ、れ丈望奇

阿良多麻能伎倍乃波也之爾奈乎多氏天由吉可都麻思  
自移平佐伎太多尼

ね

あらたまのきのちやーふかなとーそーゆきうつましわ、とときだづふ  
遠江鹿玉郡、斐十一撰フタタケノナカヘ之才戸アサヒ竹垣タケガキとすとすとすとすとすと  
とすとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと  
助研アシヤク、セ本自とちく、つまくと例るり得く、自とはまよ用ひゆるすとれ  
ばぞりききよ、とすとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと  
つとねと都久波尼ツクニとすとすとすとすとすとすとすとすとすと  
へ男のすと、伎伝ギデンの林リよまわとすとすとすとすとすとすとすと  
きらりよ、ちのれが、平林ヒラマツよ林リよハ根ルド、きよつとまくと周スルへすと

波下太  
余ノ誤  
利ヨリ  
誤

約束へりしてゐるゝとおの及しまれど、さてひとみは眠の方よつて、仰ると  
ひとりとがれば寝ひつかずや、室もち、これに男の私さう財主の伎倆の様を  
送すゆると別も時の男のあざきへの様なゆどきとまくせゑて、かれり  
きひえりやうじめもとまくせうて、まきとみてゆけり、まくとまくとゆく  
とゆくゆきさうまーとわらびてまくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆく  
ハ移毛の漫もととゆくかくてハヤシやうきこゆ

伎倍比等乃萬太良夫須麻爾和多佐波太伊利奈麻之母  
乃伊毛我宇抒許爾

きへじとのまだらあまでまけわしきもよ、いたまきりかの、いとぶをとどくふ  
伎倍人ハ伎倍の家へすとまハ即頃がおの金糸を、期金糸の販賣の又  
後久々と糸を布とまつて、一り、さすは縫まく、ほの下太ハ余  
の活たまく、一株がなごとく若一まふ男園へ入てゆうて、掲ねて

右二首遠江國歌

安麻乃波良不自能之婆夜麻已能久禮能等伎由都利奈  
波阿波受可母安良牟

あまのふらすの夫やまのくれのときゆづみあ、ありすのあくん  
夫のふらすのとくに夫が隠ハ業のみ難されば、このくれハ本之勝ニ  
さあものうの隠されば、とくに業のこぐまを伏すとくに、おと  
おば娘が隠れのまきひく、まきひくやあくと、うとやまとてつまく、まきひく  
まきひく、まきひく、まきひく、まきひくやあくと、うとやまとてつまく、まきひく  
不盡ゆすハ梅うこ本にねそよ月ハ由移ちまく

不盡能補乃伊夜等保奈我伎夜麻治辛毛伊母我理登僖婆氣爾餘婆受吉奴

かのわいやとほなが

のねいやとほなうやまくもゆかげふよハモカシム  
は連もモニシテ、とくとく、とくとく、お嬢婆文ハ不呻吟之  
をよつれて、おづきあくねるを、ゆうゆう、ゆうゆう、  
とくとく、室ももげ、けけちのけく、お嬢婆がれごハ脚利と稱せざまき  
てまろしま、よがらハ不及えじりア、お考ゲー

可須羨為流布時能夜麻備爾和我伎奈遲伊豆知武吉氏  
加伊毛我奈氣可牟

君は居て山備へ山方へひづら何道へ男ヶの舞郷へあれて本居あるある  
時、そのあれば下が、木きのまくらをもれば、方へとあれどしてまかとえ

伊奴良久波多麻乃繙婆可里古布良久波布自能多可補  
乃奈流佐波能其登

或本歌曰。麻可奈思美。奴良久波思家良久奈良久。波伊。

## 豆能多可補能奈流左波奈須興

奴良久の下波一をすく、奈良久のとつを佐の字と、けちうのあと長ゆく

まあるき經ぐる

一本歌曰。阿敝良久波多麻能卒思家也。古布良久波。布自乃多可補爾布流由伎奈須毛

青ハ次ニ及ヘモノ故ニシテアラムトヨウタマシキノミタゲルア

宣モミタリヤハチミヤノミタム、モアヒタキノミタム

駿河能宇美於思敝爾於布流波麻都豆夜伊麻思宇多能美波播爾多我比奴

一云於夜爾多我比奴

らもガのうみに。アレモガス。はまうら。まことたのみ。はよたづひぬ  
或段いそと。あまうね。ベトリメトのうち向のオヌビホロミト。ロヌト  
いつし。碑毛とよよよのうかきのまぐれ。出雲風土記。波万都豆良毛

モ夜夜ふとらすや、度々とらむかず、うづれとつらむかず、  
モ度つてものや、もとれられみかすて、ぬがおひよあはんとりて、  
うけいすごうて、よむすきとりて、いき一ハ安く

## 右五首駿河國歌

伊豆乃宇義爾。多都思良奈美能。安里都追毛。都藝奈牟毛能。辛。美大。禮志米梅楊

いづのくみ小。たつらやのみの。あつてもつぎるんかのと。みづれさめいや  
波ハをよよよ。あれられば。をよよよ。なまく。ちてきよく。あと。  
るきよく。わとれらきよや。室毛を。ひる。ざれねり。やまく。まちく。波  
の。あく。やと。あれれらんや。か。ハ。の。まく。ぬと。と。う。れ。そ。ぐ  
或本歌曰。之良久毛能多延都追母。都我牟等母倍也。美  
太禮曾家武

うのまくちのこ、かくやハキバシラニシテキヤヒツ  
む、アラヤハキバシラニシテキヤヒツ

右一首伊豆國歌

安思我良能。卒氏毛許乃母爾。佐須和奈乃可奈流麻之豆  
美許呂安禮比毛等久

あがくのとくものも

あふるのとてものもいまとわゆるかどひづりづみこうあれいもと  
お持の足ぬ少とりよ、とくとくまぐれ被面此面と將りよ、さすがまひを就  
ととる罷ワナときれいも、神武紀辭レギヤ義ナハ和ハ奈破盧ハシラとまよ月ハツ毛モヘテモセと  
ソアセハシラあやつりくよ、歎の福ハシラめば多ハシラこちでの地ハシラわく、うのこも  
ユガムハシラももづハシラちの疾ハシラきと、ひともぞハシラあつゝ壁ハシラ、かくらまの罷ハシラのこせ  
のそづハシラと、かくらづハシラとりと男ハシラをうて、はまうまくうう、生ハシラサ防ハシラ  
あよへらうとめいと翁ハシラとぞまえい可ハシラ奈麻ハシラ之立ハシラ美ハシラいと、ごあざる

我名可氣氏。安寧。補思奈久流。

和我世古守夜麻登敵夜利氏麻都之太須安思我良夜麻  
乃須疑乃木能末可

衛士も、ふよこ居る人のまのすかなし、  
文選柱駿羽タカハシとよきを歌とひるかく、ます  
より、かわらへてゐることかず、さうが都ハ部の傍り、お考べト、此によハぢく

安思我良能。波姑禰乃夜麻爾。安波麻吉氏。寶登波奈禮留。

乎阿波奈久毛安夜思  
あがみのたのみのやあふあまきうみとひちわらをあまくわあや  
まちうとすのまゆまゆく、うつといたりてもあくふくよこまち

或本歌末句云波布久受能比可利與利已禰思多奈保  
那保爾

可麻久良乃美胡之能佐吉能伊波久麿乃伎美我久由倍

伎已許呂波母多自

和名抄録卷之三  
余思保美都奈武賀  
麻可奈思美佐彌爾和波由久可麻久良能美奈能瀬河泊  
余思保美都奈武賀

あがきすみわゆくかまくのみちめせざふ。たやうなんの  
麻の生えうらはせもと作ひ、多淺、寢よひて水船て、渤海時へとる波  
の三川をとくとくすり川を渡りけんよ渤海をくわへつゝん  
みちもんと都ドリの車後スラとまどつて、おこるはあれ、ハコモラハ  
母毛豆思麻安之我良乎夫彌安流吉於保美目許曾可流

良采已許呂波毛倍杼  
カツトマアガラキスル。あまきおやみ。めとくからめ。こよりいそへと  
海に石浦をハある。すましとく。柳木アガラと母へ、是柄山の様にて送る船、  
お様の足柄かと、舟を用ひ候す。して、じらびさきかよ、伊豆も船足柄と船  
トコチムラムギー。應神紀五年十月科伊豆国令造船、長十丈、船既成之  
試浮于海、便輕泛疾行如馳故名其船曰桔野。うす、男のうよハサヤヒト  
タクムナリ。うす、あらかじめの津く本わまとトナム、富ニシテ  
ヨム、ミ思ミハあらかじめの津くあれ、女のあさで見えてそがまし

阿之我利能刀比能可布知爾伊豆流湯能余爾母多欲良  
爾故呂何伊波奈久爾

あがむのどひのかづらにづるゆのよすよたまうみこくわういとむくす  
あやつはきぬへきぬ下取のち肥のねじくもどもほりまえもくす今  
湯河原より村は湯を古の湯もんへとよれへやくみちあくまうとよ  
モこうはる等うまくめとよ、たよううそ、官くわくばいをきくとふくを  
ぬめぐとえよあくらを経あくらと、せやよリ後後ねのまよとくらむ底  
ぬますよたゆうとよあく、室をまたようたゆうとよ化のとよあく、せよとて浴を  
よ丈丈かくらきくよようのびきへ湯のうづくよよききくとくのとへあやうく  
よききくよようのくもくとくがえまよひもとあやまくとようかうべ  
阿之我利乃、麻萬能古頬氣乃、須我麻久良、安是加麻可左  
武許呂勢多麻久良  
あくのまくのこもくげのまくまくあせうまのまくごくせうまく

足利のまゝよつて、足利の行へとつておもふて、酒匂のよ

安思義里乃波故禰能禰呂乃爾古貝佐能波太奈都豆麻奈  
禮也此每登可受禰卑

あ、が、ア、と、そ、そ、の、ね、う、の、ふ、く、ぐ、く、の、ち、ま、づ、ま、ら、れ、や、じ、と、か、ま、ん、  
ね、ろ、の、そ、ハ、脚、解、べ、ま、十、苦、解、の、中、の、解、べ、辛、苦、さ、よ、り、と、ま、よ、ト、う、し、に、  
こ、も、花、ま、と、つ、ざ、と、而、よく、あ、み、て、え、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、も、  
ま、  
ま、

安思我良乃美佐可加思古美久毛利欲能阿我志多婆倍

宇許知氏都流可毛

かみのみきのかこみ。くわうとの。あがまばとこちでつるのも  
くわよのねぬもんとありれき。それとてハケトガシ。接よこすりめのとくと  
並傳するべし。欲ハ奴の。深字もんべー。おれ隠治ヒタチ乃下述置オカサテとあると  
あがまそと。ちよびへ牛のとくと同じく。おととまのびほてぬもとし。  
もへをとおひうてまゆるもと。いと、もとでつるもハ言よ出つる  
足橋の山海へ遙くとまく、もとよりこちよて物よ嫁マダラへらがきて、  
おはまのとせりて、ちよかまやー娘マダラとお腹ウツをそひかせつて、  
ま十五かにそとのうぢえーと三細海のとせけよゑく娘マダラのやつ  
とよすり、古事記よ倭武命剣足橋カツナシハシ卒スル登賀坂アマハシ三歎ミサク招云阿豆麻波  
度カタマリ

相模治乃余呂伎能波麻乃麻奈胡奈須兒良久可奈之久

於毛波流留可毛アモハタリコモ外古藤アラヒタチ味白絲シロス布天都  
とかみのよろぎのとまのよまのどもと。こらへかうくむもるもく  
和名村餘後郡餘後木ヒタチの大殘波ヒタチのあくのあく。児良えのええ  
磨半波マハタハれともいほすく。之ノ無もんべー。こらへとまべー。かうくむも  
ほよふ。せのうのまのくもとまく。まくとまくとせりとせり

右十二首相模國歌

多麻河泊爾左良須氏豆久利。佐良左良爾。太宗仁曾許能兒  
乃已許大可奈之伎

たまがふ。さくらしてづくら。さくらふ。がままでこのみ。こしたのあき  
武藏多麻良の多麻川アマガワと。序シキす。もづくら。和名村白絲布シロス天都  
乃奴ヒタチと。ま年六くらへつて。纏布マタフ日ヒまくのあき。心ハく。ト  
アモハ葉アモハハて纏マタフあく。おの御ミタマ。纏マタフよべー。くも織アマハりつ

武藏野爾。字良敝。可多也。伎。麻左氏爾毛。乃良奴。伎美我名。  
字良爾。低爾。家里

もやもへぬようへかへやれ。あまくでやるの。のぬかみがさうしてよもす  
おもすれ。ヨ内<sup>ウツエ</sup>天<sup>テ</sup>香山之真男鹿<sup>マニラ</sup>之肩板<sup>シヤンバン</sup>。こゝに或兵ちゆの  
鹿の肩骨と鹿の枝<sup>ハチ</sup>トちよかすく。シテ、えもんへ占合<sup>アハセ</sup>舎のまへへと  
えのめよび。また。また。また。また。また。の麻佐<sup>マサ</sup>モト。大<sup>オ</sup>き。の麻佐  
低キモト。アリ。アリ。アリ。アリ。アリ。父母の。り。うつて。右  
へ肩板<sup>シヤンバン</sup>。ト。ト。ト。ト。ト。鹿骨と腰<sup>ハゲ</sup>。ハゲ。古<sup>コ</sup>の。左の。右の。左の。右の。  
左の。右の。左の。右の。左の。右の。左の。右の。左の。右の。左の。右の。  
ゆく。あかう。の。かう。一。ゆの。かふ。こ。と。と。

世昌爾安波奈布興

むやみのとぐちがすこー。たぢやのれいよひよせらまの、ちよよ  
とぐちハ小岫こくゆうの改よひて、せまのとぐちとくとも、機突ひくえ  
へよくくもぐー、おはまといくとくの、せうのう、め輝、あハちよハあ、ぬ  
とりと近う、よハとし押す輝うて、教くことを会めり

乃伊呂爾豆奈由采

己ひけ、そでしもくと、もきぬのうけ、うそあ、ろまづかゆらへ  
寺もあ、ご、二三の句、扇の序、字鏡白木、良、和名抄木、辛今、和名抄木、良、似箭生山  
中故名山薦、と、せれに、スヒキヨ学と、すうじよ、せ黒木、辛今、  
と、すうじよ、あ向ハ達、と、むきよ、あれヒリ、と、さう、  
よき人を、と、あく、神祇、と、みと、と、ま、よハ四事と、  
も。

み、ハシタリタリと、女の方のまゝ、次のハ男の差し手あ

或本歌曰伊可爾思氏古非波可伊毛爾武藏野乃宇家  
良我波奈乃伊呂爾低受安良年

先ハ多々うへ或ちよどく行ふやハ後もまへ一ノナカニキセキつゝよゆう  
えきぎとく字けりト一平けりモトツハ、うきがと身をが、よりよぶや  
等乃人左皮母呂武吉可毛可久母伎美我麻爾末爾

武帝里人作引書云可不有之  
五口者余利爾思字

むやみに、かわいがり、よきよ  
せたるを、風おふぶく、お葉の

の徳もさうすれど、このみえから、彼と離れて暮  
生をもつたうじきがあつて、今まことにあらじ  
よかるこまくからずがとうと、そのとがまかうる

卷十四上  
十三

伊利麻治能於保屋我波良能伊波爲都良比可婆奴流奴  
流和爾奈多要曾補

小聖、少林八今事之

和我世故卒安杼可母伊波武牟射志野乃宇家良我波奈  
乃登吉奈伎母能卒

かのやことあらわしもんじるぬのうきよと  
かの向の平ハちとまさえあとナハ、何へゆかまく、立タたひにんぐわく

きくきそうくしが表のばはとソアがものと、さきまざぐからだ、布多のや高  
の旅よひのまひ。

佐吉多萬能津爾乎流布補乃可是辛伊多美都奈波多由  
登毛許登奈多延曾補

さきたまのつふをるすねのかせをくみつかひたゆとしことわたえまね  
崎玉取ハ海ふよしぞ、引詠の大川の船津とよもぐし、たとい風うぐい、  
船屋へゆく、とぞよくちうれりそ

奈都蘇妣久字奈比辛左之氏一等夫登利乃伊多良武等曾  
與阿我之多波倍思

なつそびくうじとくとくとてとどとすのに、そんとぞよあがまくを下  
まつそびくれむ、橋度子うまいとよゆをも、此をあひとゆるたゞ、  
此降等比久といてやうれば、もばくまくおもくおあくも方へ

きくきそうくしが表のばはとソアがものと、さきまざぐからだ、布多のや高  
の旅よひのまひ。

右九首武藏國歌

宇麻具多能補呂能佐左葉能都由思母能奴禮氏和伎奈  
婆汝者故布婆曾母

うまぐのねうのよこひのつゆーものめれてやきまばとひよはゞも  
和名抄望多郡太字とモハ坂の音伎と古ハ馬來田とちく御ナバキのゆく  
れうじ玉々あ、ねうハ廢等々、病氣等とつて、能くり、あまくられ  
てうつあうどきあはるあらのまくもくられてのまくと室もくつ、  
まく神と振とれもされで、まくまくハ、ゆとばゆくまればどとくまく、  
わがきゆるがなとくとくと、あらよかくとくと

宇麻具多能補呂爾可久里為可久太爾毛久爾乃登保可

婆奈我目保里勢牟

右二首上總國歌

可都思加能麻未能手兒奈卑麻許登可聞和禮爾余須等

がづのまのてごちゆるとか。ふゆのとよのじかと  
上

おのめのほのまのあらもと、とみよぢへよきくらうひへばせ女にわらふ  
かのまのほよもくちもく、このまのねよもじのあくすゆよくわらふ  
まきよ、まもくまのまこと、まよよまくてくらうく人の  
りとも云へまくつてはざる女のあくさればばむごのをせのまがはあくざと  
とく、わらべー

可豆思賀能。麻萬能。手兒大。家安里之可婆。麻末乃於須比爾。奈美毛登。杼呂爾。

爾保持里能可豆思加和世乎爾倍須登毛曾能可奈之伎  
乎刀爾多氏采也母

尔保之乎かづりてせをみくもとくのがちうきまととくつうめや  
かうくの林道、お橋と新宿<sup>ニナ</sup>新宿をまく公ハをよしゆく、田舎の  
民戸をくとけなせつるもぐー、は津くよはんの人のへあるをくに  
ど、ゆうつうとくよもく、うそんよへ戸のあよひせばぬくへまくを  
もとすのたゞくよく、みのうかきはもくとくよもとりと男を  
ひまく、やうされでけの戸をまづる布奈<sup>ニフナ</sup>まよりばせとやまく  
いよよげ戸をとくドナリ

安能於登世受由可牟古馬母我可都思加乃麻末乃都藝  
波思夜麻受可欲波牟

あのねうさむくまひがづのまのうぎちやまくがまくん

呑の音せうぐく川の接きみに抜一ひくうて後してほれど、が一度きよら川中  
みねをひうくまく、それま接本とゆいて、板とちく津く後もく傍持と  
つまく、や筋とやうく、見じてぬざひんみ、ほくまくでほくもく  
うれと引く

右四首下總國歌

筑波補乃補呂爾可須美為須宜可提爾伊伎豆久伎美乎  
為補氏夜良佐補

つともねのねろよ、かきみあ、そきびて、いきくきみとおはてやうくね  
此がひきよがわ、キテのよくもとゆうでまと、男のゆくすもくもひ  
きくもくとくひく、うくもくとくひく、ひきづり、はとねくもくとくを御く  
やまくねハ事一サトカクモねとくあく、おなてやれと化よう。今きうれ  
ふつしく、まえハ自れよとくば十のきづのまのくみうきつ、

伊毛我可度伊夜等保曾吉奴都久波夜麻可久禮奴保刀爾蘇提婆布利氏奈

筑波禰爾可加奈久和之能禰乃赤守可奈岐和多里南牟

安布登波奈思爾

つゝかぬかかなくわのねのみとのやまきわすりあすとばすりふ  
孰のあすかれり  
相模海すく覓賀鳥のあすせりとひづりす  
とせん、和名抄麻加、とせん、工ハ佐とひそん抄よどもの

筑波禰爾曾我比爾美由流安之保夜麻安志可流登我毛。  
左禰見延奈久爾

アハアのうとうとくみゆる。あはやか。あはのうとく。もみえをまく。  
そぐひか背向く。あやかハト所固く、旅はづから、二幕ふのうへかへ。こ  
あどりく。手よき、おひき。あんじわとく。おとづれ。おとづれ。おとづれ。  
よつねよ。と女のよき。わくびー、まくす。まくす。わきまくす。まくす。  
りくまのよひし入かく歌く。ほま

筑波補乃伊波毛等杼呂爾於都流美豆代爾毛多由良爾  
和家於毛波奈久爾

未嘗之才未濟奈久爾  
アラウのハモドリヲヨお

わのいともどつておつるみつよすれゆかてのゆはなへふ  
ちづみハ名聞くモ既のくせよしとハタシムとあるの後宮も  
たゆふとよみのじかまきとあるのをハ男のうとあやがく、たうかは  
おぐくお見とらうとよりよし良好とよみて、おもひひつ、家古ト  
あよ化とトと

筑波禰乃牟氏毛許能母爾毛利敝須惠波播已毛禮籽母  
多麻曾阿比爾家畠

一  
トモのを、そのかみに、たまにあしよる  
じきを、うのとよむ、かくばすが、まごの白母鹿れど、うかが  
はやく、おもむねど、とみづかのまよ、已ハ可の怪とも、もと

左其呂毛能。爭豆久波禰呂能。夜麻乃佐吉。和須良延。許波古曾。那乎可家奈波賣。

さざやのとづくはねのやかのわきらるこひえをとけりあ  
さよの枕宿、のきいは和名都岬山側也。日本紀私記云左  
あへぬとぞるむのあくまもうちをハつてゐのことを今通う新嘗よ  
りもく、時、とれておもが、こそもけぞりめ、忘れが、こかよかけと  
おがくよがく、言よがくくいづるも、ばこととつまく、ゆふにと  
りよとれりとせ、といつて、もゆく

辛豆久波乃  
禰呂爾都  
久多思安比  
太欲波佐波  
太奈利努

系萬多補天武可聞

をづくはのわろよて、あひよがはなかうぬとまくねてんうり  
つくや一月立<sup>ムチ</sup>初月と、あひよて、間夜ちも佐波太の太<sup>ハ</sup>余の屋主、  
さはよきよし、ほ若<sup>ハ</sup>秋月のそくに達て、向<sup>ハ</sup>みをとろのまよま  
れびいすあく人<sup>ハ</sup>也やせん又まよのあくうとあやがるとこ  
宇都久波乃之氣吉許能麻欲<sup>タマ</sup>都登利能<sup>タマ</sup>自由可汝乎見  
牟左禰射良奈久爾

をづく<sup>ハ</sup>の土<sup>ト</sup>げきこのよよたつとそのめぬうたとみんきぬうらうくふ  
冠<sup>ハ</sup>考<sup>ハ</sup>事<sup>ハ</sup>少<sup>シ</sup>のほよおゆく、立<sup>ハ</sup>きの群<sup>ト</sup>で<sup>ハ</sup>きり、幸<sup>ハ</sup>れの宿<sup>ハ</sup>室<sup>ハ</sup>ま  
上のあハめ<sup>ハ</sup>いと序<sup>ハ</sup>もく、モ序<sup>ハ</sup>の向<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>むれとて、さく<sup>ト</sup>る匂<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>だ  
因<sup>ハ</sup>す<sup>ミ</sup>ア<sup>ミ</sup>あ<sup>ク</sup>ん<sup>ト</sup>り<sup>ス</sup>、さわ<sup>ハ</sup>く<sup>ミ</sup>す<sup>ミ</sup>の<sup>ミ</sup>を後<sup>ハ</sup>、幸<sup>ハ</sup>十五<sup>オ</sup>一  
もも<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>ま<sup>ト</sup>の<sup>ミ</sup>を<sup>ハ</sup>め<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>美<sup>ハ</sup>延<sup>ハ</sup>射<sup>ハ</sup>良<sup>ハ</sup>ま<sup>ク</sup>え<sup>ホ</sup>く<sup>ヨ</sup>う<sup>ミ</sup>も

比多知奈流<sup>ハ</sup>奈左可能<sup>ハ</sup>宇美乃<sup>ハ</sup>多<sup>タ</sup>麻毛<sup>ハ</sup>許曾<sup>ハ</sup>叱<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>波<sup>ハ</sup>多<sup>タ</sup>延<sup>ハ</sup>須<sup>ハ</sup>  
禮<sup>ハ</sup>阿<sup>ハ</sup>持<sup>ハ</sup>可<sup>タ</sup>多<sup>タ</sup>延<sup>ハ</sup>世<sup>ハ</sup>武<sup>ハ</sup>

ひもつあるなさのうみのたま<sup>ト</sup>こそ<sup>ハ</sup>たえられ、あ<sup>ト</sup>たえせん  
なきうのあち人<sup>ハ</sup>よ<sup>ベ</sup>、あ<sup>ト</sup>うな<sup>ト</sup>の<sup>ハ</sup>か<sup>ト</sup>壁<sup>ハ</sup>リ<sup>ハ</sup>が<sup>ト</sup>ね<sup>ハ</sup>、<sup>ト</sup>年<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>  
ぞめん<sup>ト</sup>と

右十首常陸國歌

比等未奈乃<sup>ハ</sup>詩等波多由<sup>ハ</sup>登毛<sup>ハ</sup>波爾思奈能<sup>ハ</sup>伊思井乃<sup>ハ</sup>手兒<sup>ハ</sup>  
我<sup>ハ</sup>詩<sup>ハ</sup>登奈多延曾<sup>ハ</sup>禰

ひとみちのことをいたゆともちよりあいへゐのてごがことなまこえをね  
許等ハ言へ埴科郡の石井とつ里の名をもんてござりますり、まづての  
人のまへだとも、るゐのときが許よりのまへだるるなまくもんと男のよ  
をもく

信濃道者伊麻能波里美知可里婆禰爾安思布麻之年奈  
久都波氣和我世

志まぬぢひまゐもすみちかすぞねよあふましむよくつをけわざせ  
後紀和銅六年美濃信濃二国之境経道險阻往還艱難仍通吉篠路くしゆ、  
以月のすみかよとの堅道といふ時代じだいより移る慶元年けいげん八分竹  
と刈除うりするす切掛けのきと略々、災害よきとひり、ササなどハ前ほ根を  
生おきて古いき多たる小竹シタカ之川材雖足跡破ハシヒキくつをけよセハ沓著タマフ、  
は跡ハシをうのをとせく連ツルて男ハメかす女のメレを

信濃奈流知具麻能河泊能左射禮思母伎彌之布ミ美良婆  
多麻等比呂波牟

志やめどもちぐまのかちのきりりもきそゝもてばたまひろりん  
川が流フれ聲シテる在リト今ハ他取よ此川の名とぞシテるわがれ  
ウニナシモトシテて波ハシてあふと有リばく

中麻奈爾宇伎乎流布禰能許藝氏奈婆安布許等可多思  
家布爾思安良受波

あつまつようきとくわのこぎとくあすことかづくすあづ

中麻奈地名ちもぐ一シモグ一シモでハ住ムあくせんよぢシモ、中を走ム西シモ、  
和名抄更科郡小谷ナガシマ守シモ小縣郡童女ナガシマいづせシモ、古シモハ半シモ云  
一シモ、女子と半シモ子とシモづぶらシモ、中シモてよ上中下シモづシモとシモづ  
てくシモあり、指シモすうの後シモちれシモれと人シモアヘシモとシモ、もとシモて毛シモ方

のあらス越後へある川もとよりあふのうてり男よあき女のうみ  
かくねよめの數えとまくよおとく拂ひよ先え御よまく一日をも  
ひと情そーなよく

右四首信濃國歌

比能具禮爾宇須比乃夜麻守古由流日波勢奈能我素低

母佐夜爾布良思都

ひのれふうもいのやまとこゆるいハセチのづとよまよよく

ひのれよハ日暮ふ<sup>ア</sup>桜洞玉あくべ、碧名抄上野碓氷郡<sup>宇須</sup>比<sup>モ</sup>リヨシ  
のゆきをのりぬ里よつみれ<sup>ア</sup>、そぞとひのハ振振袖をまのえつて今<sup>ア</sup>  
とせつまつむちん、勢奈能良<sup>ヒナガ</sup>夫名根之<sup>モ</sup>伊母能良<sup>モ</sup>ホ<sup>モ</sup>  
ミ<sup>モ</sup>妹根等<sup>モ</sup>ホ<sup>モ</sup>夫名の名<sup>モ</sup>節名<sup>モ</sup>と美<sup>モ</sup>くもるたの例<sup>ア</sup>  
根ハ物のキとひく、聞く中<sup>モ</sup>あふ、天皇と倭根子と申たをまつ

安我古非波、麻左杏毛可奈思、久佐麻久良、多胡能伊利野  
乃於父母可奈思母

あづくひ、まくのし、かたす、くそあくのたのひゆめのれづかたす  
まくのよどく、ほのれの根はもくじ、根のまくとつよ、多胡ハ今國<sup>ア</sup>  
此郡を置く、和銅三年の紀<sup>モ</sup>と、へ壁ハモアの生へ於父<sup>モ</sup>の父  
ハ久の孫もくじ、夫の孫<sup>モ</sup>のこを傳<sup>モ</sup>かず、おてまよとくとく熱  
いの<sup>ア</sup>、お<sup>ア</sup>入<sup>ア</sup>の奥と<sup>ア</sup>、お<sup>ア</sup>てまよとくとく熱  
可美都氣努、安蘇能麻素武良、可伎武太、伎奴禮杼安加奴  
乎、安杼加安我世牟

かみつけぬ、あそのまくじ、かくじ、きわぬ、あみを、あぐわ、せん  
かよ<sup>ア</sup>も野の用<sup>ア</sup>、バ<sup>ア</sup>安<sup>ア</sup>ハ之の向<sup>ア</sup>あくと、安<sup>ア</sup>下<sup>ア</sup>、安<sup>ア</sup>上<sup>ア</sup>

まう、もあうとひの里かわち麻の群りくふと序とも、かかへるむ  
たきの身抱<sup>ムダキ</sup>よく、麻の群<sup>ムカシ</sup>るとぬくが、抱<sup>ハサフ</sup>束<sup>タマフ</sup>ゆると想<sup>マム</sup>てお抱て  
寝れど、抱<sup>ハサフ</sup>ぬと、何<sup>ノ</sup>の事<sup>ハ</sup>やんとほのゆうとゆう

可美都氣乃守度能多杼里我可波治爾毛兒良波安波奈毛比等理能赤思氏

かみづけのとよのたまふのか、もとよりあはれにしきのとよ  
ミリ乃ハ野のうゑ、西へともへーあととゆ、をどの大どりがまくハ、小野之田  
野等之川道ふしとひつゝ、お名おみ甘樂、綠野、群馬の三郡ふ、おゆく  
小野のうゑ、すまむきぐー、せとせとをよなく、以川み里だまくとく、  
人目ちきくわるればがるふとすらねじぬよ、父あよありやしゆりふと  
りて、せうよお遠くのせうよあくちくくまのえりふあくせれ  
うくよみよみふ、するせ経きくと、おちぐー

或本歌曰可美都氣乃平野乃多杼里我安波治爾母世  
奈波安波奈母美流比登奈思爾

可美都氣野。左野乃九久多知。守里波夜志。安禮波麻多牟。  
惠許登之許受登母。

安徳院の安ハ弓の語

けぬやあのくたちをすたや。あれ、まあ、とてこども  
木やハ今トキアリヨ男モ、シテハ、和名村薦久ヒアラタ  
太知アラタ蔓菁之苗也。もも  
ナウ、台記シムの食膳シラタニより、わくもーへめと巻ハニ  
まくまく、幸手ハマツの吉角ヨシツバハ清筆セイシの波  
坂断ハサカミ、吉完ヨシマツハ墨志モクシのてよじ、まきしのちのちハ、  
天智紀アサヒノクニ、阿例播アレハルシエ俱流之衛コリュウノエとニつ  
よきやの多く風ハラハラ、こゝそとハ東ヒ不來アシタハタモ、之ハ御船ミツヅチ

たまくすくとくとく

可美都氣努・麻具波思麻度爾・安佐日左指・麻伎良波之母  
奈・安利都・追見禮婆

かづけぬまぐハ一あくふ・あくしよ・まきこり・まきこり・まきこり  
今まくはとよあくと・う・もまくはよけをう・みく・モ復讐と  
ひといふ・まくをめる・ゆ・おとゆ・まくのまく・まくの  
壁にて・あそて・おとて・男・おと・おと・おと・おと・おと・おと  
つ・おと・おと・おと・おと

爾比多夜麻・禰爾波都可奈那・和爾余曾利・波之奈流兒良  
師・安夜爾可奈思母

にひやまわづ・つ・な・わ・よ・ま・く・は・が・る・こ・う・あ・や・か・な・り  
和名抄新田郡新田てよ・せ・よ・え・ま・く・ね・す・ま・の・つ・の・く・ま・く・よ

ちよつ・ば・ざ・く・む・と・サ・リ・と・よ・う・と・か・よ・こ・ハ・き・い・い・わ・く・き・の・く・  
この・つ・ま・ア・ハ・つ・ち・く・の・三・と・キ・シ・ゆ・女・の・御・エ・イ・ク・ス・ヤ・ト・ア・キ・  
キ・の・お・す・つ・ま・る・や・く・同・く・あ・ら・と・よ・ち・ま・く・ト・ミ・テ・ニ・の・お・ト・ト・  
包・く・く・そ・く

伊香保呂爾・安麻久母伊都藝・可奴麻豆久・比等登於多波  
布・伊射補志宋刀羅

いのほろ・小・あ・ま・ぐ・い・き・か・ま・づ・く・じ・く・わ・く・よ・い・く・ね・と・そ・ら  
此下おすのゆ・伊波能信・よ・い・く・く・の・あ・ま・づ・く・比等尊・ゆ・く・よ  
ゆ・お・め・カ・良・と・て・の・セ・く・う・い・う・ハ・神名帳・群馬郡・伊加保神社・呂  
ゆ・旗・か・旗・ハ・レ・ト・モ・旗・立・く・作・き・の・伴・ハ・後・後・い・う・い・の・シ・の・前・や・の・  
う・そ・か・お・ま・と・よ・お・ま・で・い・と・う・と・け・も・と・う・と・妹・と・の・一・つ・で・  
く・よ・く・や・よ・せ・よ・せ・よ・ハ・お・ら・ぶ・と・よ・う・同・く・お・も・く・り・ま・く

ナリ、まの匂ハヤハリモテテス、ばお腹トモシムトヨリ也。アリテ  
エニテアの約たうて、タクハヤリトモルトヨリ也。アリテ  
ラムのニシハギテテマス、と有リテキ、それどモジゾノ内經もシ。  
妻仲ハミハタの侯ヨクンといフ、持よカハ已の侯ヨク、シテ有  
ナシ。

伊香保呂能蘇比乃波里波良、補毛已呂爾於久辛奈加補  
曾麻左可思余加婆

ハのほろの、そひのちり、わざくともかね、まきこり、ようバ  
セトミ、いうをの、そひのちり、わざくともかね、まきこり、ようバ  
トヨク、ミシヒ、嶮のすなは、室毛ハ川儀のそひくと/or、わざ  
るの匂ハ、よへぐるさう、とすねえハ、モ榛原の奥原、とまの  
すま壁ヘソ、ヨミケ、上、アレシテ、とくあく、バ、奥まのすと/or、

多胡能補爾、興西都奈波倍氏、興須禮騰毛、阿爾久夜斯豆  
之曾能可把興吉爾

たのねよ、よせづまちて、よすれ、あややとつ、そのかハトモヤ、ふ  
るわよお、ねハ先く、をハトモナリ、リヨヤシ、とくよ、  
半千ニがくれと人ハナリ、と、往復又ハシモ風立ち、ハ十個、  
て風を引いて、まうる、之一キ久夜、あすく、やとづく、ちみや、リ  
リケド、あやまく、行方失ひ、抱一キ抱よ、と、と、おもてや  
らうて、うらみて、立て、あふき、と、おの、のう、行考べ

賀美都氣野、久路保乃補呂乃、久受葉我多、可奈師家兒良

雨伊夜射可里久毋

かみつけぬくろほのねろのくざ、さく、かち、けこらへ、いやや、さくも  
くろほのれちくをぐ、豆良のゆまちわばくをさう、ハ葛葉まうご、  
がちげ、かすきよくをるき、いやざ、うくくは放來、え萬のづの遠  
ざうとくとあとせう、そはた、妹とおまつと歌くとみ防人  
のうゑりまへ道とよう、又せまよくば、さく、ハ地名もんのむき

刀補河泊乃可波世毛思良受多々和多里奈美爾安布能  
須安敝流伎美可母

利根郡へめぐらへたるゝと曰ふくわゆゑと、直涉とよきと、あや  
かしきとすよあきとよきのちとまことにえ廣ひ多太ニ

可美都氣努伊可保乃奴麻爾宇惠古奈宜可久古非牟等  
夜多禡物得宋家武

かみつけぬ。うのぬやて。うちこたまが、かく、もしもたねをめぐる

小川葱院公、拉ハた、生三く玉とて、後求とよハすのよセ因の、も  
小あやこはよたとて、ひくサキシムシテソリト、めざまーとと

可美都氣努。可保夜我奴麻能伊波為都良比可波奴禮都  
追安乎奈多要曾桶

かみつぬかほやうぬよの、いとおづらひづめれつ。あとちたえをね  
よまぢわやうの、いもづくとよす、わがハトモタク、きそだりくら  
あり、まハモとぞすすうちれ。

可美都氣奴伊奈良能奴麻能於保為具左興曾爾見之欲  
波伊麻許曾麻左禮

かみつぬ、わむのぬあひ、おほあぐん。よきふそーよハ、いまこくまやれ  
和名抄莞井於保可以為席者、宇鏡莞見内古九反似補員井又覽於保井と云、覽ハ覧

の俗字、さくらんのさまの、遠くスケうちをみてまさへ

柿本朝臣人麻呂歌集出也

ちのあはるハ三うと傳へり、すまはれ、お年を何々交えき

可美都氣努佐野田能奈倍能武良奈倍爾許登波佐太朱  
都伊麻波伊可爾世母

かみつぬ、さめ、のちのむしむよ、ことひだめつ、いまハいのふせも  
付せハよよむ、すみの思、草代ハアシヨ一むれで少くぬるれ、群苗ハシメて  
それとうなじゆううとくもくとく、古ハ言のをくばむうとくとく、  
和多の草んやとくとく、本ナドきくとよきくまく、うれバトハいのうと  
まこと歎くと、せゑハ待き

伊加保世欲奈可中次下於毛比度路久麻許曾之都等和  
須禮西奈布母

「うやでよハ伊も保テ行カ夫モドリ也、ヨモギセキシハ忘れセム、二の  
句の中次下のニモキ事のモシテアリ、又、スムケモトモシシトハの傳テの  
所よ遠テテ、ミテレハ必字の傳、リテテモトメアリ、アリ之廢モナ次モ吹シ化  
マの句ト言キナシモ、或レアリアレサシテ、アリキモキト候ノミ  
可美都氣努佐野乃布奈波之登利波奈之於也波左久禮  
膳和波左可禮賀倍

かみづけぬさめのよなば、とくとくち。おやはやくれど、わはとくれび  
あそハ、川の船と並べ、偏まつて挽よつて、かくとく放つてす。あれハ、かくいひ  
て男と女、争ともうまく、みたゞく、禮官が流よせるとよとを、  
わざうるさく、まへねらしやねらしとゆる聲く、モサラまやたまち  
ももうこまのむき我弁いりがんりとおまくつてす。一ノ木あても和波

伊香保禰爾可奈那  
里曾禰和我倍爾波由惠波奈家  
母兒良爾與里氏曾

うながみあくまきわづよハゆもかなへるよりてふ  
サケハ雷ニシカム人のみようこそかすりあくさ  
うてふくまきれとぞそもちげどくはまくと黒きよ

伊香伊可是布久日布加奴日安里登伊倍杼安我古非能未思等伎奈可里家利

可美都氣努力伊可抱乃禰呂爾布路與伎能遊吉須宜可提

のまつらぬ、どうのねろよ。のたはるのまつら

ナリヨキハ零雪ニキミシテシヒノリコラムハリミスムニ

ゆきことすいとく料レ

右二十二首上野國歌

之母都家野美可母乃夜麻能許奈良能須麻具波思兒呂  
波多賀家可母多年

志もつけぬみうのやまのこやまのまくまぐハアスナラケのわざん  
夏父夏うるくか節山うが節とソホ用く上あれハ、小桶のまくまくす  
ナシヤくべ某度解カタハのまくまくちしこまくまく、あまくまくすえハ解ね  
まきのむれハ、解とシシロ解とセーもん、宣もニこやまのまく  
まくの解、こまくハ本桶といて、まぐもハ古より久波志賣達あ  
まときうてとまくふ開くくじハセモる詞、まハ度え、たうケウハ、まく小  
竹丸とリマサウく、ナラキシキウジキ、キムシハ待待タダシ

志母都家努安素乃河泊良欲伊之布麻受蘇良由登伎奴  
與奈我已許呂能禮

志もつけぬあそのかよくよけぬまぞ、さくらゆとまくまくのれ  
和名抄々安蘇郡安蘇<sup>アサヒ</sup>郡今イ叶川<sup>アサヒ</sup>とぞ、妹<sup>アメ</sup>大<sup>アシカ</sup>とツリハ、夏  
きの原と稱<sup>スル</sup>おひそひて來<sup>スル</sup>とよき、やくゆとまくぬよハ、を從  
と爲ひてありゆるとよひ、まよアタシモおひそひとよひて、  
まごのれハ神ハからうひてあ<sup>リ</sup>トナリ、いはすや、安<sup>アシカ</sup>ハと書す  
よとひて、行考<sup>ハシ</sup>べ

右二首下野國歌

安比豆禰能久爾辛佐杼抱美安波奈波婆斯努比爾勢年  
葉比毛牟須婆左禰

あひづなのをとどめ、あはきりとしむすばくね  
和名抄會津郡、ねの原へ作ひ夏月と、因遠とあはなりハ相無アシナツ  
下ヨリあはたま布トキ、あは奈信トキ、もとくのくと將トキ、  
セモバキナハむちくゞく、訪人の力引のあきらゲテ、室ももニニテよみ  
してカヒシ、あひづなのあはなり、ふきうきれハ初向ソ、ズムトイアフ、  
え磨半努の年と毛よじる同、ミモ

筑紫奈留爾抱布兒由惠心爾美知能久乃可刀利宇登女乃由比思比毛等久

アラカルムアリヨコサムモチノカタトマツルノウレバ  
ヨリハ艶のまことまくらう、達良ヨリカトマツリシモミテ  
モトホドモ度トメテ、うづ清び細と、筋筋之防人モ引キモテ女

安太多良乃補爾布須思之能安里都都毛安禮波伊多良  
牟補度奈佐利曾補  
あづらのねよもやのあづりあれづら行どみさわきね  
寧々陸奥之吉田多良モウトヨシ浦モアキガタニ集トヨリ物の  
あづもえぞあくのあづらのまうとよひあづらといつもふと皮  
みあづもとよのむづぶ和名村安達那とよもくらひのちうら  
ハ秋も拂ひ必附木とくらぬかのむれハ蟹もとれとくらむ  
人と男もすわどもさりもねハ跡石とゆくもくもくと

不二音

等保都安布美伊奈佐保曾江乃水卒都久思安禮卒多能  
采氏安佐麻之物能卒

とがつあつた。いわゆるほそえのうをとく。あれをやめておれがうみを  
引作和江ハ引佐取、そのことをアの玉木、ほそえのうをとく。と  
てはい、なまといふのをさせてのこと、沙子のとがたをもとのと

右一首遠江國歌

斯太能字良寧阿佐許求布補波與志奈之爾許求良宋可  
毋與奈志許佐流良宋

右一首駿河國歌

阿之我里乃安伎奈乃夜麻爾比古布禰乃斯利比可志母與許巴波故賀多爾

あづかのあわせのやまにじこやのさかじよくはござ、  
あづかは是柄にあらわの山あらわし、じこをばゆじう一かよハ  
後引<sup>シラキス</sup>をひきよ左へ船をまよひ船を送ふが、まよひもまよひのちよ、すて  
逃げ<sup>ハタマ</sup>は下まよ、船よとまよ、船とおもて、船と下<sup>トキ</sup>もおもて、  
後引<sup>リ</sup>とひき、さて、まよひ男のほう引<sup>リ</sup>て、まよひまよひまよひと  
置くまよひ、まよひまよひまよひまよひまよひまよひまよひまよひ

阿之賀利乃和爭可雞夜麻能可頭乃木能和爭可豆佐補

母可豆佐可愛等母

ありあわせかけやまのかづのきわ。わとかづまね。かづさうのどと  
かげふとくよもぐ。それと君と無てぬと。りまよひむく。こせよ  
をあちこせじ。ソア歌へかづの本ハ穀<sup>カキ</sup>う。行ゆよもう。とハかでいそん席<sup>モ</sup>、  
下へ音とがくせ。かづぎくともと。りまく。そトハかくらひと。もみう  
まおおせかく。ざやらば人<sup>カダハニカセ</sup>。可母<sup>カマヒ</sup>。ス及機<sup>シキ</sup>。多風<sup>タフ</sup>。の<sup>ノ</sup>の  
考かどす。すりふと。あればらもじると。がくよ。かづまかとよ。とい  
興<sup>カク</sup>。引<sup>ハ</sup>。かづきの。としハ。かづ。うると。と。うをつ。、宝鏡<sup>ホウケイ</sup>。詰曲<sup>ハシ</sup>也。加止<sup>ハシ</sup>不  
多伎木許流<sup>タチキヒツリュウ</sup>。可麻久良夜<sup>カマクニヨウヤ</sup>。麻能<sup>マヌ</sup>。許太<sup>ヒツタ</sup>。流木<sup>リュウモ</sup>。麻都<sup>マド</sup>。等奈我伊  
波婆<sup>イボバ</sup>。古非都追夜<sup>コヒツニヨウ</sup>。安良年<sup>アラニ</sup>。

たき。こゑ。がまく。やま。こゑ。まき。と。ま。と。ち。の。い。つ。や。あ。ん  
な。き。ふ。こ。る。枕。抱。け。じ。よ。枝。意。る。ね。の。吉。本。の。ま。う。う。く。と。ね。と。待。よ。を

右二首相模國歌

可美<sup>カミ</sup>都家野<sup>タカニ</sup>。安蘇<sup>アシ</sup>夜<sup>ナ</sup>麻都<sup>マド</sup>豆良<sup>トコロ</sup>。野卒比<sup>ヨシヒ</sup>呂美<sup>ルミ</sup>。波比爾<sup>ハビル</sup>思物能<sup>シモノ</sup>  
乎<sup>ハ</sup>。安是<sup>アシ</sup>加多延<sup>カタヒ</sup>世武<sup>セム</sup>。

かみつぐぬの子やまづらぬと。しきふ。を。ひ。す。もの。と。あ。せ。う。れ。う。せ。ん  
よ。の。序。ふ。そ。ひ。と。と。日。く。ち。く。せ。と。え。を。よ。遠。ち。く。そ。ひ。う。れ。う。お。う。  
か。の。と。ほ。を。た。ん。と。ひ。と。

伊可保呂乃<sup>イコボロノ</sup>。蘇比乃<sup>スビノ</sup>波里<sup>ハリ</sup>波良<sup>ハラ</sup>。和我吉奴爾<sup>ハガキヌル</sup>。都伎與良之母<sup>トキヨリ</sup>  
與<sup>ハ</sup>多敝<sup>タカヒ</sup>登於毛敝婆<sup>タカヒタカヒ</sup>。

い。の。う。の。そ。ひ。の。を。か。わ。く。に。の。き。ぬ。よ。つ。き。よ。く。や。よ。た。べ。と。お。か。ハ

よナリニ句出づきよ一カヨハ波多のをときよ一カヨモタヘミル  
ヘバアリ翁ノシガマ一といもせ、妻中ハたゞハモ持のムヨモ、吉ヌ等  
ミヌ神方トタスノシガマ一とおゆきとそマツリトイド想テモ、

牛皮ホ召化等ホキミ故の上にのすまく、はきハヒトクのムヤヒテ、

ソムクモモハカミシヨリテ、考ベー

志良登保布・辛爾比多夜麻乃・毛流夜麻能・宇良賀禮勢那  
奈登許波爾毛我母

キムトホシモミシタヤマガヤマガ、ムジナレセキ、トコトコナムギモ  
キムリヤ松新田歌のムニテハ、トツモトモウセのムのム、カムモ  
キニニハヘノキムトモウゲル、ウモモムテセムモトイヨ、  
これヨリダク事のムセテタキムトコトク、ラサヤキムモ、モ六益常茶  
のモトヨリ、御葉のカツラギムトコトク

右三首上野國歌  
美知乃久能安大・多良末由美波自伎於伎氏・西良思馬伎  
那婆都良波可馬可毛  
蘭又曰 喻大附歌

みちのくのあくらまめかキモモテ、セシ一めきもばづるがのく  
あぐらまうよ門つほともブ一モテ、ミム一セモキモバ、ミテナズ  
合一モテ、がくもくよつて、かきうおなもびと思ふく、ミテナズ  
まどゆくべからず、まよむかみづく

右一首陸奥國歌

雜歌

都武賀野爾須受我於等伎許由・可牟思太能・等能乃奈可  
知師・登我里須良思母

つむづみふと、ぶおとひこの、かくさのとのやうのぢーとがづすーも

モハ、ハ、夜の尾鐸、かんす、び、後河志太郎志太の里、よ上下、ヨリ、  
な、く、人を、の、知、欽明紀長曰、箭田珠勝大兄皇子仲曰、譯語田淳中倉  
太珠敷子サ曰、美、雄、皇女、も、以、仲、と、や、の、ら、と、よ、り、古、ま、な、る、べ、ト、  
き、も、が、な、う、み、ち、ハ、中、男、と、り、ご、ー、印、ハ、脚、辯、も、ち、み、ち、ハ、け、ト、ド、ト、ア、リ、こ、  
モ、ハ、多、ね、く、又、生、す、あ、れ、つ、と、す、と、初、鷹、狩、と、ち、く、シ、難、と、ゆ、く、ち、く、モ、く、  
も、ね、く、あ、る、く、駿、リ、ハ、國、の、守、今、く、ど、の、や、と、り、ご、ー、ス、野、四、國、送、の、  
易、キ、ト、リ、よ、く、か、ギ、キ、ハ、後、河、周、府、ハ、安、郡、取、よ、ち、と、後、河、辯、よ、伊、波、吳、  
ナ、ル、シ、ダ、ベ、ノ、ト、  
奈、留、之、太、戸、乃、止、乃、と、く、よ、ハ、志、ま、み、物、の、勘、領、の、も、と、り、く、あ、バ、く、も、と、  
令、セ、考、キ、よ、か、ん、ち、だ、ハ、發、向、く

或本歌曰美都我野爾又曰和久胡思

須受我禰乃破由馬字馬夜能都追美井乃美都辛多麻倍

奈伊毛我多太手欲  
まごわのちゆすりまやひてみおのみづきすまへな。ゆあたてよ  
妻汗はひそえきのくやまとひアトモヒヌハニ度ニ崩ミテセ名スヌ  
まくまやハ早馬よく、紀モ驛とはいまとれり、てみわひまかくり一酒  
きく首井えど子の少吸はす直よ峰とくもくとくもく  
許乃河泊爾、安佐奈安良布兒、奈禮毛安禮毛、余知宇曾母  
氏流、伊低兒多婆里爾

こののは、必ずもあつてよしやうなつゆれ。ともとでかくちでこやかに  
余知じを知余きく、古より改ま立余知古良とすれづきくらへ、ま  
たちみよるるふくらび四千<sup>ヨナ</sup><sub>二</sub>庭<sup>テ</sup>をうす、よしとへ甲<sup>カ</sup>はらひのすくはれに  
毎日<sup>イデ</sup>流ハよきげんじとくらへ、あるといふとぬめどもう、こハれきごと、伊  
佐<sup>シ</sup>もん、正<sup>マサ</sup>とまよむがすらふと、主母<sup>ミツメ</sup>とすとく、主母<sup>ミツメ</sup>とすとく、

がくうとく一或人ハ妻里ホの余ハ孫の傳シムトモ

一云麻之毛安禮母

まへつまへ

麻等保久能久毛爲爾見由流伊毛我敝爾伊都可伊多良武安由賣安我古麻

まやくのくすゐよゆる。かづよどつてきんあゆのあびこよまへ寝みて遠くはせざへゆゑをかく安我ハ五吉

柿本朝臣人麻呂歌集曰等保久之氏又曰安由賣久路

古麻

安豆麻治乃手兒乃欲妣左賀古要我禰氏夜麻爾可禰牟毛夜杼里波奈之爾

あつまものたごのよひきあこえがねてやまふわんもどりかなふ

山下すもお用さうあら、宮きさノキツハたこみて、即田ふ浦日あらく  
しの蓬塙山に望武礼集すしたゞのよひきのとトキウモトドリ、ね  
むものもハル輝

宇良毛奈久和我由久美知爾安乎夜宜乃波里氏多氏禮  
婆物能毛比豆都母

うられくわらくみちよあをやすひはうてたれひもひかひづ、も  
ううなくハ何をもくちをうてされど、柳の芽のほするべ猶云  
出つとりを畠々なれば、上のつを遇すよから、豆一本豆よ化、  
そのひでつり、うひもみてこと。

伎波都久乃辛加能久君良和禮都賣杼故爾毛乃多奈  
布西奈等都麻佐禰

キほづのをのくみらわれつて、こすのこなせなとつまき

仙風記と曰て枳波都久岡常陸國真壁郡より、  
字鏡前ミツルヘイ、少雅前シヤウヘイ  
注本判曰一名蟻蝶、疏一名蠍蠍藍、雜称良、雜称良とも、宦臣云、莉と久とより  
アハ城様の訓あり、税司よ谷模をそぞうのくらハ莉と雜並との内  
ちきくとひす、故尔毛の下乃ハ美の極もす、邊り、みきまで、あきまは支と  
あよしとしゆく、館よりひきをもひるすとどり  
あよしとしゆく、館よりひきをもひるすとどり

美奈刀能也、安之我奈可那流、多麻古須氣、可利已和我西  
古、等許乃敵太思爾

みなうや、あーがなうれる、たまこすば、かわくわざことこのへどふ  
一ホ禰美奈刀安之能とも、聲く年う生るまゐくみゆるをむず  
どりかく小斐の聲くもとむりとあはれまき、えちぐく即くもハを  
ほめて、ソラモトもあらず、重ふのへかむをひて、度の延の中間をす

伊毛奈呂我都可布河泊豆乃、佐左良辛疑、安志等比登其  
等加多里與良斯毛

いもなうづづかづのさうこをす、あーとひとことかくら、のうしも  
下る姓名根とよみ見る名とし、ば姓名とよみもよし、そひ筆お同じ、教のる  
ハ姓もあとおら、すとくうも、河泊豆乃、もとうをきハ萩ふた小  
えもく、もかきとよづ、それどあと、一ひとんばきの聲くあゆふさら  
とひのえもくんやとひとごと、ハサキとひもくとひくせきと、聲ハ同じくも、  
水よ生て、形もゆう、ヒ男の行向の命よめよと、ながるがけくもの  
あまふ、おちがく時、何もよすとせてもうるよとおわづよ、こもくあ  
ききのえもくらがくとくれば、づれづれ、あれどとよよくと、りく、いぢ  
あはれよもよとこ、ハ河泊豆乃、ふかまく、よハサキとおもいそれつれど、  
つれどおもよとよくへ強きなまく、室をまつての東をさざにまく

和句のかのまへ詠句へすけくんで、ひとごとへ他まくせが思ふるをえひ  
おぞくも、そつよ門の森よ甚よと他のまを語りく、これをうしよつよ  
うもととどす、ほほ顔たるまゆづり

久佐可氣乃安努弩奈由可武等波里之美知阿努弩波由  
加受氏阿良久佐太知奴

ときのあめなゆのんとすみちあめハゆのびてあらそだちぬ  
美十二草陰ノアラキ之荒蘭アラカキの傳とくみ、倭姫命世紀ノ故國名何問賜白々草陰阿  
野國アマノクニトアサガアとてきたる松河マツケナムの、宣長マツナガミ阿努アヌハ地名のゆく汝、  
大さへ余の深きとて、あくまでも、吾主根アシキチ之とくま根アシキチを乃とし奈  
とよりはよも聲ヨモシ奈能我ナシタガでりとくよふ用ヨウとくゆも名ナメ根ルをあら  
リ宿スルさればその乃をぬよきり、下の奈ナガハ之シテのとくとく聲ヨモシあり  
ゆりぞくまへ君タマも通スルとく人ヒト目メなまナマ、聲ヨモシをひこきハゲ、人ヒトへ通スルハ

ち事ハシくき事ハシの生マサニ立タチめマサニ事ハシめマサニとあれど、あめハシちの抱  
極マツシなくマツシ一ヒコ二ヒコの句安アシキの下シテの勢マサニのまマサニ、宣マツナガの句阿アシキの下シテの勢マサニの字  
な

波奈知良布已能牟可都辛乃宇那能宇能比自爾都久佐  
麻提伎美我與母賀母  
となぢよのむりつをのとやのをのひじよつくまで、きみびよか  
花散向事ハシマシをなマサニと伝マサニをセ名マサニをひそこの事ハシマシあるべ、自マサニ  
目の後マツシくへひつマツシくまでと門マツシへ、一ヒコ佐アシキの字マサニをとよとく、さき  
事ハシマシの体マサニく事ハシマシく縫マツシの縫マツシよつマツシくまで、あらが代マサニハあれうマサニとつマツシく  
べ、それのりとほマサニもくとくマサニハマサニく

思路多倍乃許呂母能素低辛麻久良我欲安麻許伎久見  
由奈美多都奈由宋

志のもので。まくらびよ。あまこぎとみゆ。なみくらぬめ

神と寝ともいふて、下のまへ寝後、くもがつてのくもをりびし、

あへをよりれバ。之はまた麻良良秋マラガラガノコガノワタリノ許我能和多利コガノワタリとみるを、冠舞

考より野の倉カラガ下よりやもあれど、必別と定めざれば、よもやめてそれを

お下にそぞりせりあるつそれより、よりよりの里を

辛久佐辛等。辛具佐受家辛等。斯辛布禰乃那良散氏美禮  
婆。辛具佐可利馬利

斯下平  
本誤可  
下利ハ知  
侯

をくもをと。をくもをと。とほがみのくもでみれば。とくもかくも  
をくもとくものゆきとけと。因ゆめ改丁ちくびー。もと助丁エシナフとくべ、  
上のをくもとくもとくは改丁ちくびー。改丁ハ男と女との公役と勤めあ、  
次丁ハ老なる男と、そればとのちけをひ中男とくも。妻ニテニテ助  
丁とりあるもよあれど、令よも。ナセよりサまでと中男、サ一より六才

ますまでを正丁、六十より六十五までを改丁とす。此集上丁とくよハうの正  
丁とく、助丁とくよりの申男次丁とく。斯辛の辛一本抱化モハ  
本の舊へ、既身とく抱化く、あるのねとがとうひす、とほ貝、とやせら  
どめ。舟の運びとくと、船の男とく。とくとくするよく、可利の利ハ  
え磨キ知よ化も。捨ゆりふく、とくとくの正丁ひまされとく。とく女のみ  
とく宣も。辛久佐と辛具佐とくの清閑是あれ。別地ちくびー。さて  
は富の莫キも。とくとくの正丁ひまされとく。とくとくの正丁ひまされとく。それ  
はれとくとくとく。とくとくの正丁ひまされとく。とくとくの正丁ひまされとく。

左奈都良能。辛可爾安波麻伎。可奈之伎我。古麻波多具等  
毛。和波素登毛波自

さなづのをくのあ。まき。さなづ。さま。たぐ。わ。そ。と。そ。

神名社は守護神也。那賀郡酒列磯崎神社も、もとよりとくち  
の御子也。すれまへうが、とすもあらかじとよたてめやまつり五郎  
のまへうどともひもはるをすくゆて、るをあゆましもせき十九  
せんよりよるたすりりともよみ、とす奥利のぬき、神代紀よ素戔鳴  
尊秋則放天斑馬使伏田中とすよひくるうすく、わハシとモハド、  
あきちこどもおもむく、又大卒ち喚太追馬鏡、泉の追馬喚犬とも  
きわればそハもとせす群と、それハ、そとしつれりせひやう、波自ハ逃ハドを  
もとの毛よれのひ、せあるかよ、れと黒々ととくもとつ考なれも

於毛思路伎野乎婆奈夜吉曾布流久左爾仁比久佐麻自  
利於非波於布流我爾  
おもよきぬとがなやきまくあるくもほひおもがふ

利。麻欲比伎爾家利  
可是乃等能登抱吉和伎母賀吉西斯伎奴多母登乃久太

かせのものとほもせやまもぶせやもぬたまとのくらひあまよしもよけふ  
風のもの海河、そはほくよくおもみまつりて、こ年ほるかよたすゆはうはう  
てよをや一衣の秋のうしなひ本てりえ、ま七八こと、行かほんに敵  
衣扇のまよひを絆みとくわくんとよあらうひい、此のまよひよりあり、  
くづりへ行けと向どくそく、秋のよよ下まくまよひいたりとよかなもく、  
爾波爾多都、安佐提古夫須麻許余比太爾都麻余之許西  
禰安佐提古夫須麻、

今來ぞとも、ごよひばかりととよそつまよーこせぬ、まとよす本をよ、  
炎床の金糸よ、萬引てりども、があれど、幸九郎のくも、不正ふよ、ソ、  
妻依木西尾妻と、りひなまがくと、いよ、回じ神代紀妹盧豫嗣余院  
副豫利櫻称、これハ日係よ、依て来ねとよ。

火あらわ  
陰森道  
阿久八聲  
阿久八聲

